

越冬後のトビハマキ幼虫の防除時期は「ふじの展葉1週間後頃」

地方独立行政法人 青森県産業技術センター りんご研究所

りんごの害虫であるトビハマキの幼虫は、りんご樹の枝幹表面にまゆを作って越冬し、春になるとまゆから脱出して葉などを食害します。まゆ脱出時期は気温が高い年には早まり、気温が低い年には遅くなりますが、りんご樹の生育も同様に気温によって影響を受けるため、トビハマキの防除時期はりんご樹の生育を目安に推定できることを明らかにしました。

- トビハマキ幼虫は、りんごの樹皮で越冬し、春になると葉に移動して食害します



幼虫脱出後の越冬まゆ

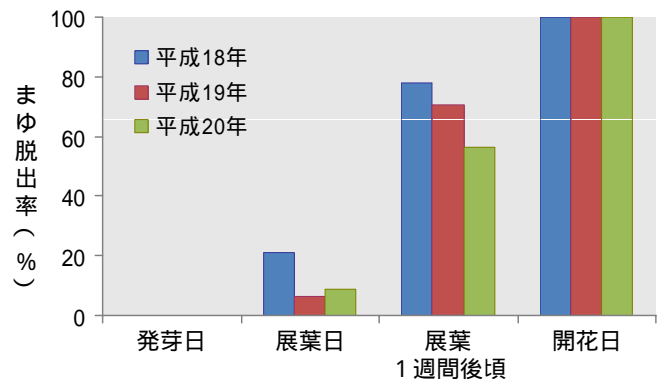


葉を食害している幼虫

- 越冬幼虫はりんごの葉が展開するのに合わせて、まゆから脱出します

調査年におけるりんご樹の生育の早晩

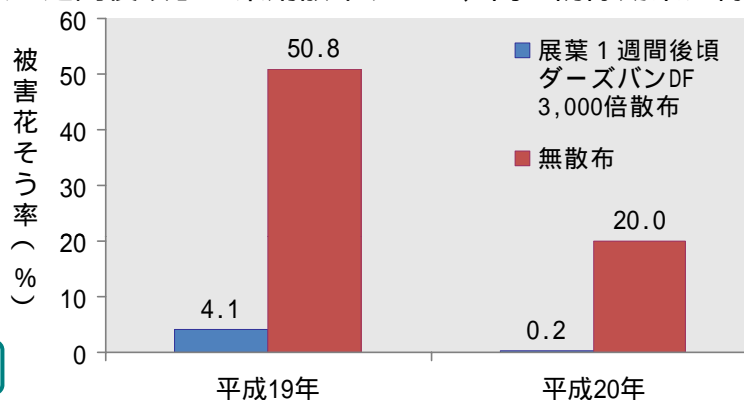
	平成18年	平成19年	平成20年
気温	低い	平年並み	高い
展葉日	4月26日	4月21日	4月11日
開花日	5月15日	5月11日	5月1日



りんごの生育と越冬幼虫の脱出率の関係

平成18年は気温が平年より低く、平成19年は平年並み、平成20年は平年より高い年でしたが、トビハマキのまゆからの脱出はいずれの年もりんご「ふじ」の展葉期に始まり、展葉1週間後頃に5割を越え、開花期までに終了しました。

- 「ふじの展葉1週間後頃」に薬剤散布すると、高い防除効果が得られます



お問い合わせ

りんご研究所病虫部まで (0172-52-2331)